

1. 実況上の着目点

- ① 台風第2号から変わった熱帯低気圧が伊豆諸島付近を北上。
- ② 500hPa 5820m以下で-6℃以下の寒気を伴う寒冷渦に対応して日本海西部を北東進する低気圧から、温暖前線が東日本日本海側に、寒冷前線が九州北部～東シナ海にのびている。前線や低気圧に向かう日本の南や①の熱帯低気圧周辺からの下層暖湿気の影響で、東南北部～南西諸島で激しい雨や非常に激しい雨を解析、雷を検知。
- ③ 300hPaで-30℃以下の寒気を伴う上層寒冷低気圧（UCL）が日本の南を西進。周辺で雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の熱帯低気圧は、25日は伊豆諸島付近を北上、26日は、関東地方の沿岸部から日本の東に進み、夜までに温帯低気圧に変わる。
- ② 1項②の寒冷渦は、26日にかけて秋田沖に進み、27日はトラフとなって日本の東に進む。対応する低気圧は、26日にかけて閉塞しながら日本海を北東進、26日夜までに閉塞点上の三陸沖で発生する別の低気圧が、27日は2項①の低気圧を取り込みながら千島の東に進む。また、低気圧からのびる寒冷前線が、25日は西日本にのび、27日ははじめにかけて西～北日本を通過する。上空寒気や低気圧や前線に向かう下層暖湿気、及び2項①の熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で、西～北日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。これまでの雨の影響で地盤の緩んでいる所があり少しの雨でも土砂災害の危険度が高くなるおそれもある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ③ 1項③のUCLは、27日にかけて日本の南から南シナ海に進む。上空寒気と太平洋高気圧の縁を回る下層暖湿気の影響で南西諸島では大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。
- ④ 26日にかけて、2項①の熱帯低気圧や2項②の低気圧と前線の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹く所がある。西～東日本では強風に注意。また、東日本太平洋側では2項①の熱帯低気圧の高波域からのうねりの影響で波が高くなりしける所がある。高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ## 4. 防災関連事項【量的予報等】
- ① 雨量(18時から24時間)：四国120、関東甲信・東海・近畿・沖縄100mm。
 - ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島4、関東3m。
 - ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。南西諸島と西～北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。